

参考資料

京都市中央食肉市場の取扱状況及び
全国の食肉生産・流通等について

目 次

- 1 京都市中央食肉市場の取扱状況・・・・・・・・・・1
- 2 全国の食肉生産・流通に関する動向・・・・・・・・7
- 3 輸出に関する動向・・・・・・・・・・10
- 4 京都市中央食肉市場の10年間の年表・・・・・・・・11

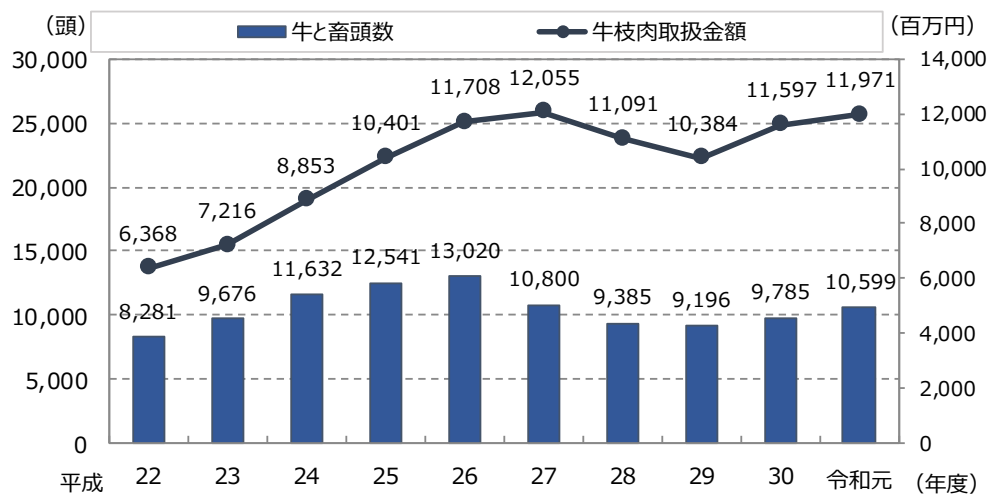
1 京都市中央食肉市場の取扱状況

(1) 過去10年間（平成22年度～令和元年度）の推移

ア 牛のと畜頭数及び取扱金額

- 牛のと畜頭数は、平成26年度まで増加したが、全国的な出荷頭数の減少等の影響を受け、平成27年度から平成29年度まで大幅に減少している。平成30年度以降は、新施設稼働等の影響もあり、再び増加傾向となっている。
- 牛の取扱金額は、平成27年度まで増加したが、と畜頭数減の影響を受け、平成28年度、平成29年度と減少した。平成30年度以降は、と畜頭数の増加や卸売価格の高騰を受け、平成27年度に近い水準にまで増加している。

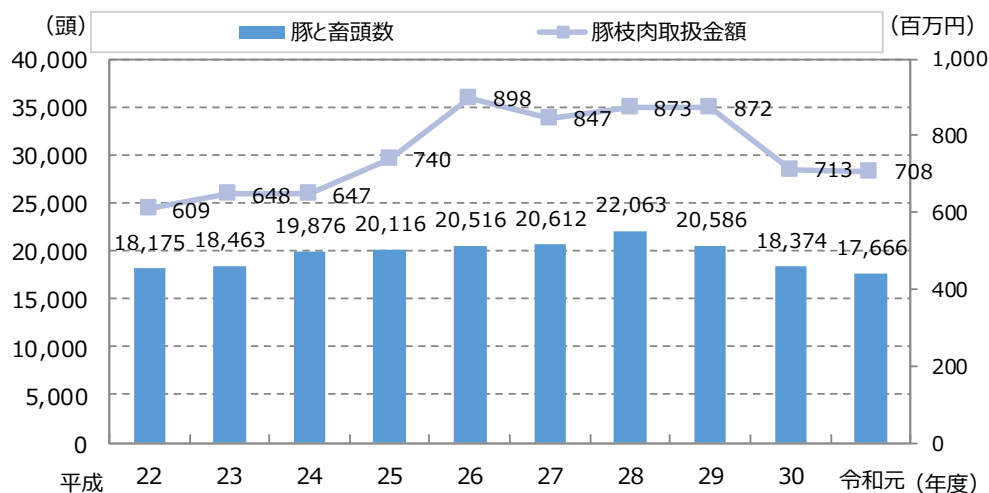
図表 1-1 牛のと畜頭数及び取扱金額の推移



イ 豚のと畜頭数及び取扱金額

- 豚のと畜頭数は、平成28年度まで増加したが、豚出荷者の廃業等があり、平成29年度以降は減少している。
- 豚の取扱金額は、平成26年度まで増加し、平成27年度から平成29年度までは概ね横ばいで推移しているが、平成30年度以降は、と畜頭数減の影響を受け、減少している。

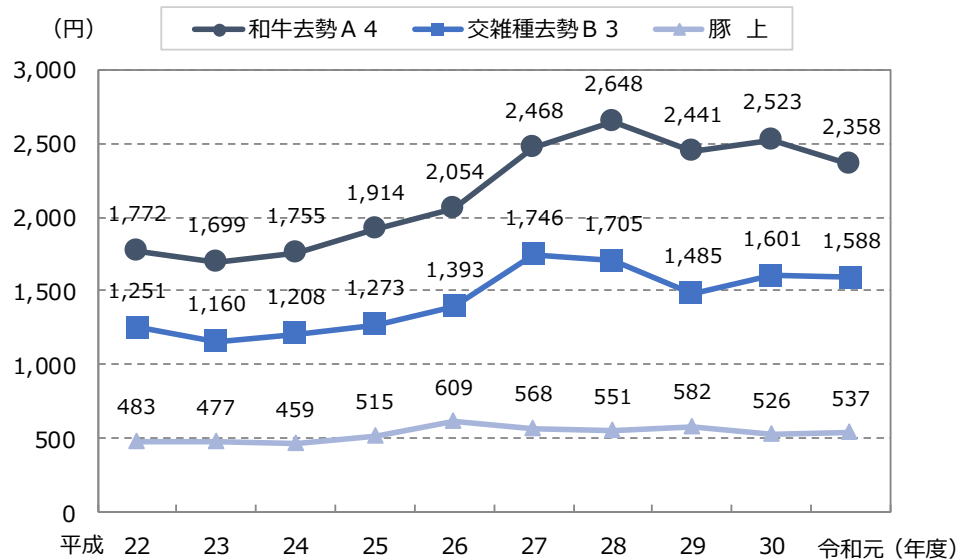
図表 1-2 豚のと畜頭数及び取扱金額の推移



ウ 牛，豚の卸売価格

- ・ 牛の卸売価格は，和牛去勢 A4 においては平成 28 年度，交雑種去勢 B3 においては平成 27 年度をピークに下落傾向にあるものの，概ね高値水準が維持されている。
- ・ 豚の卸売価格は，平成 26 年度をピークに下落傾向にあるものの，概ね横ばいとなっている。

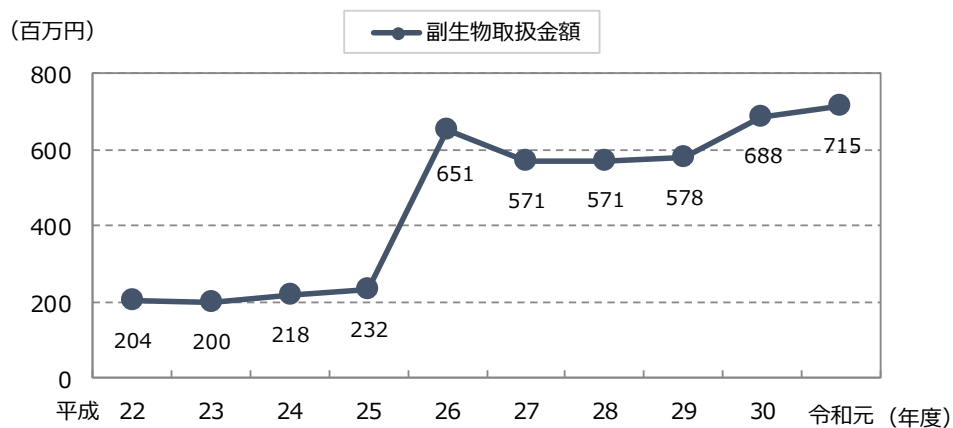
図表 1-3 牛，豚の卸売価格の推移



エ 副生物の取扱金額

- ・ 副生物の取扱金額は，平成 26 年度に京都食肉市場（株）（以下「卸売会社」という。）と京都副生物卸協同組合（以下「副生物組合」という。）の合併があり大幅に増加した。平成 30 年度以降は，販売価格の見直しの影響もあり，増加傾向にある。

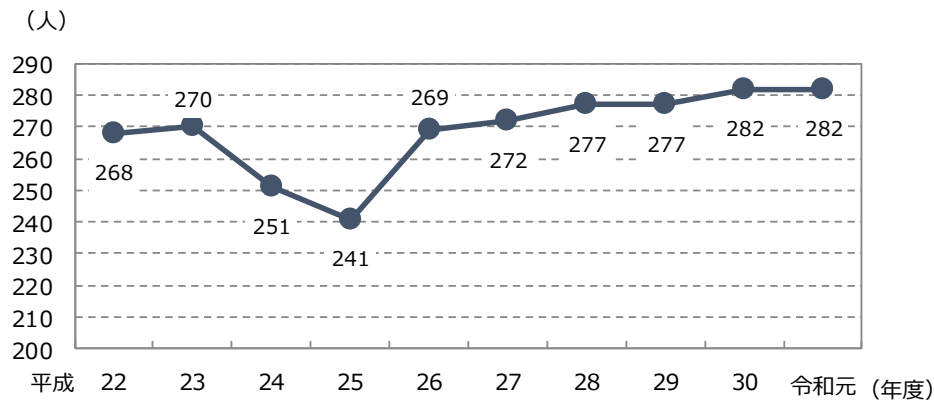
図表 1-4 副生物の取扱金額の推移



オ 売買参加者数

- ・ 売買参加者数は、平成 26 年度に卸売会社と副生物組合の合併があり大幅に増加した。平成 27 年度以降も、新施設稼働や輸出対応を見据えて新規売買参加者獲得に取り組んだことなどから増加傾向にある。

図表 1-5 売買参加者数の推移



カ 牛肉の輸出

- ・ 牛肉の輸出は、平成 30 年 11 月にタイ・マカオ向けの輸出認定を取得し、平成 31 年 2 月に輸出第一号をタイへ出荷した。
- ・ 令和 2 年 1 月にアメリカ、3 月にシンガポール、4 月に EU 向けの輸出認定を取得し、8 月に EU 向け、11 月にアメリカ向けの輸出第一号を出荷した。

図表 1-6 輸出認定の取得状況

	目標	実績
平成30年度	タイ・マカオ	タイ・マカオ
令和元年度	シンガポール	アメリカ・シンガポール
令和2年度	アメリカ・EU・香港	EU

図表 1-7 牛肉の輸出実績

		タイ	マカオ	シンガポール	アメリカ	E U	合計
平成 30 年度	重量 (kg)	312.1					312.1
	頭数	3					3
令和元年度	重量 (kg)	7,701.8	2,163.7	2,815.6			12,681.1
	頭数	49	11	8			68
令和 2 年度	重量 (kg)	0.0	4,945.2	32,983.4	295.1	1,133.3	39,357.0
	頭数	0	47	125	6	16	194

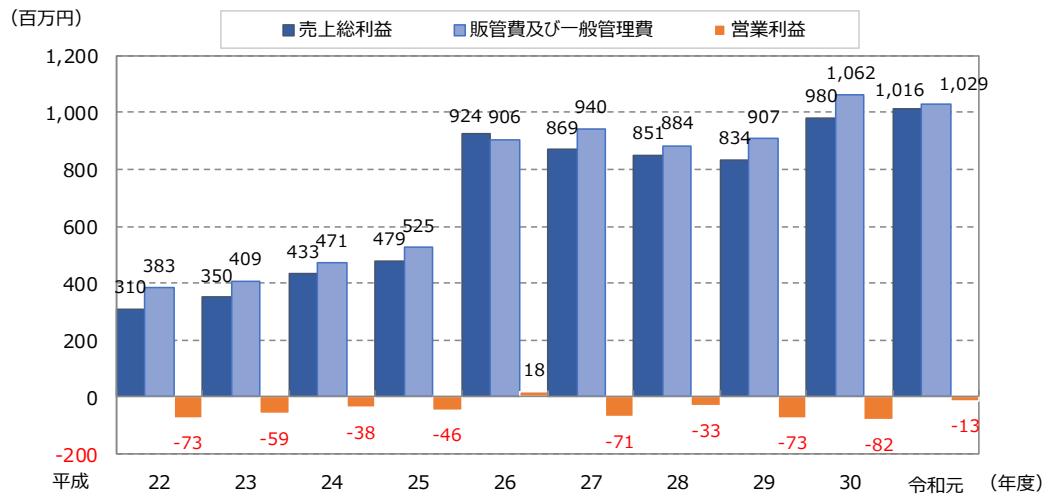
注 1：1 頭を複数の国に輸出した場合、重複してカウント

注 2：令和 2 年度は 12 月までの実績

キ 卸売会社の経営状況

- ・ 平成 26 年度に卸売会社と副生物組合とが合併したことにより、大幅に売上総利益が増加した。
- ・ 平成 27 年度から 29 年度までは、牛の集荷頭数・取扱金額の減少等を受けて売上総利益が減少した。
- ・ 平成 30 年度以降は、新施設稼働や積極的な営業展開により売上総利益が増加している。一方、HACCP 導入や輸出対応に係る人員拡充や業務量の増加を受けて、販管費及び一般管理費も増加している。

図表 1-8 卸売会社の決算金額の推移

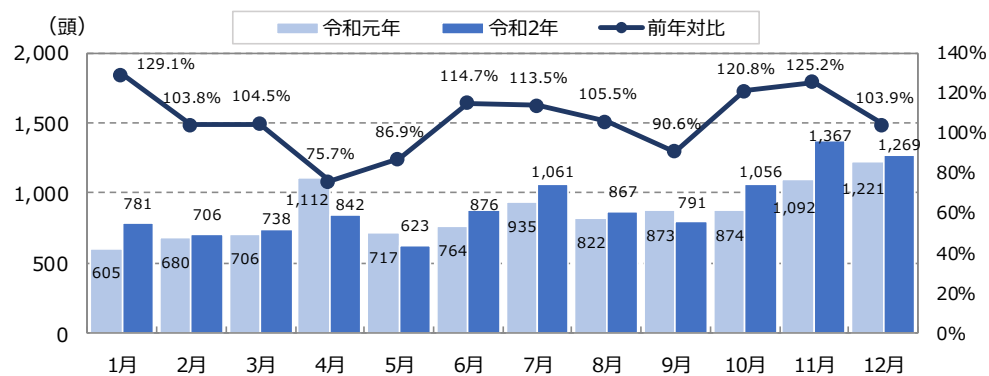


(2) 新型コロナウイルス感染症による市場取引への影響

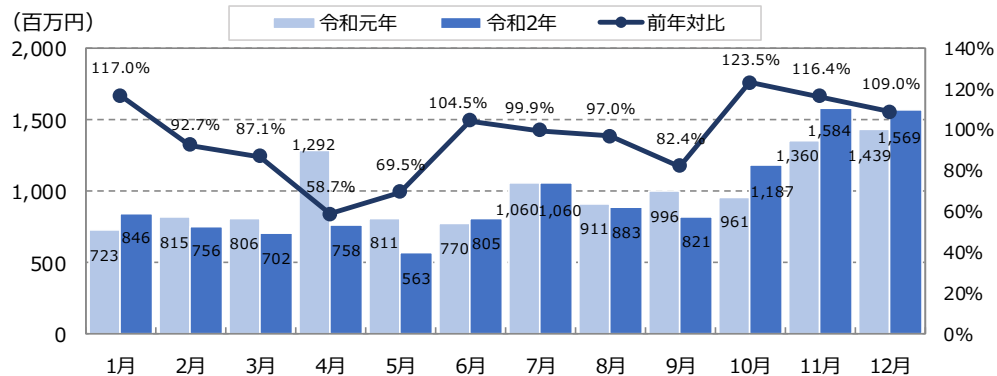
ア 牛の取扱状況（令和2年1月～12月）

- 取扱頭数については、緊急事態宣言後の4月には前年対比75.7%と大幅に減少したが、緊急事態宣言解除後の6月以降は前年対比110%以上で推移した。9月には前年対比90.6%と再び減少したが、10月以降は前年度を上回っている。
- 取扱金額についても、4月、5月については前年対比70%以下と大幅に減少しており、取扱頭数の減少と連動している。6月以降は、卸売価格が引き続き落ち込んでいる影響を受けて、取扱頭数の増加分ほどは回復していない。10月以降は、卸売価格が前年と同水準まで回復したこともあり、取扱頭数の増加と連動して、前年よりも増加している。

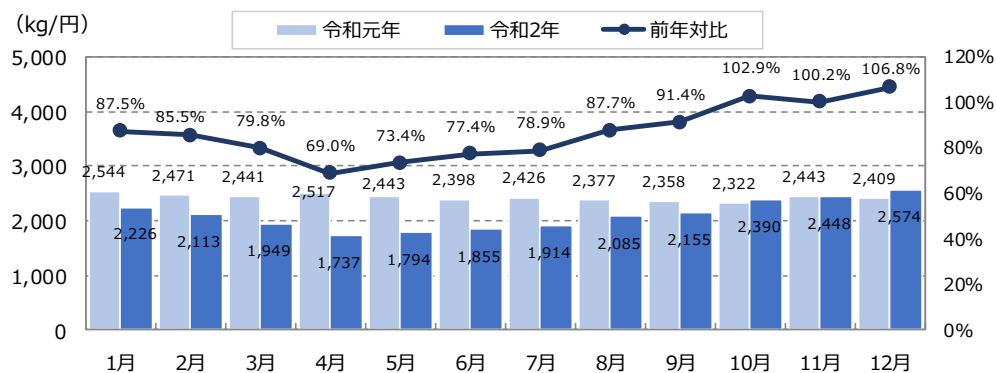
図表 1-9 牛・取扱頭数の状況



図表 1-10 牛・取扱金額の状況



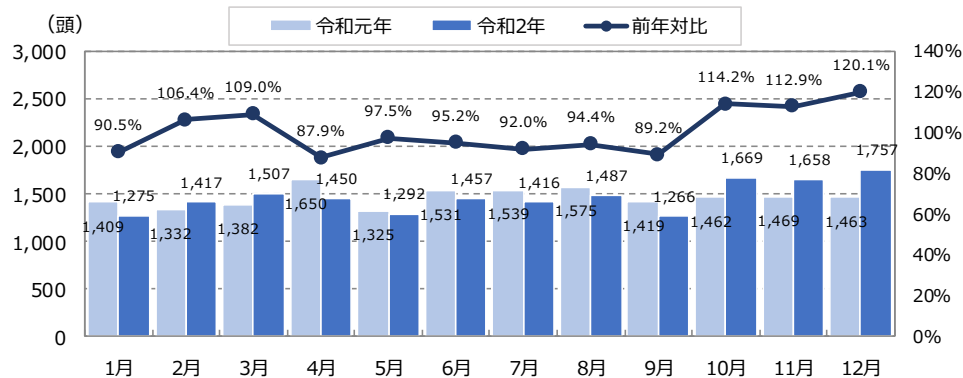
図表 1-11 和牛去勢A4加重平均卸売価格の状況



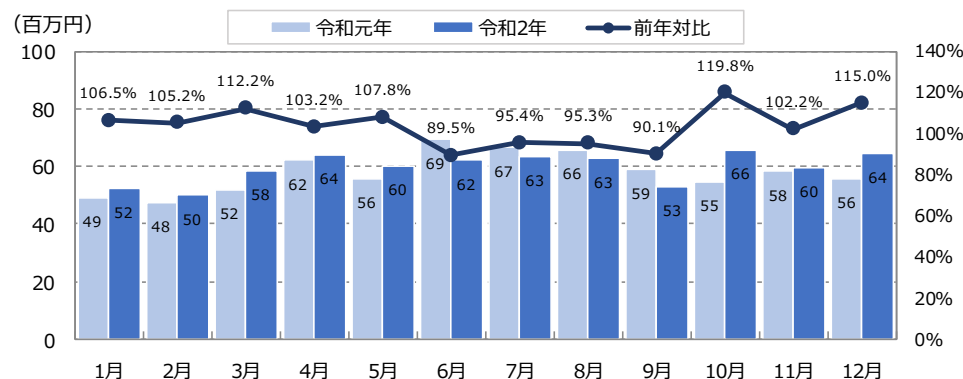
イ 豚の取扱状況（令和2年2月～12月）

- ・ 取扱頭数については、緊急事態宣言後の4月には前年対比87.9%と減少したが、5月にはほぼ前年と同水準まで回復した。緊急事態宣言解除後の6月以降は、微減傾向で推移したが、10月以降は大幅に増加し、前年対比110%以上で推移している。
- ・ 取扱金額については、卸売価格の推移と連動して、緊急事態宣言期間中の4月、5月は前年対比プラスで推移しているものの、緊急事態宣言解除後の6月以降は、取扱頭数が減少した影響を受けて前年を下回った。10月以降は取扱頭数の増加等の影響から大幅に増加している。

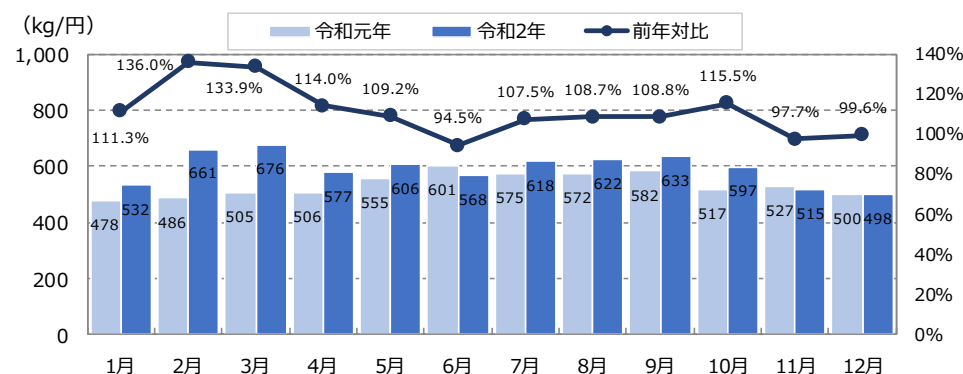
図表 1-12 豚・取扱頭数の状況



図表 1-13 豚・取扱金額の状況



図表 1-14 豚上加重平均卸売価格の状況

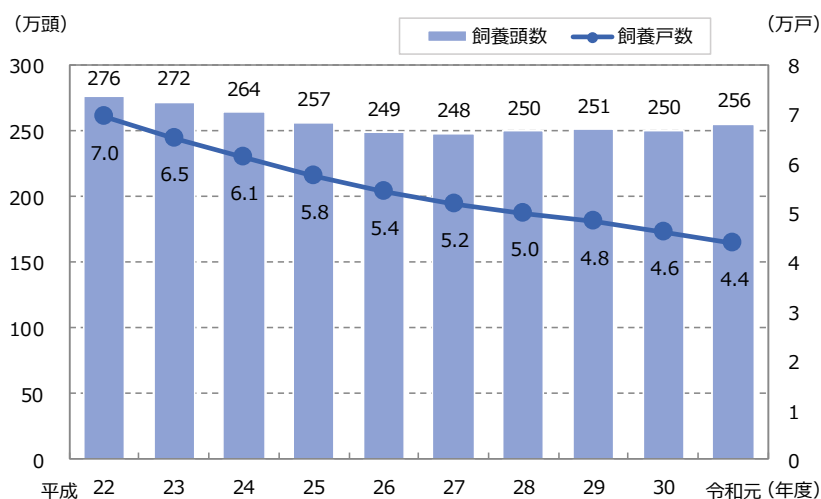


2 全国の食肉生産・流通に関する動向

(1) 全国の肉用牛の飼養頭数及び飼養戸数

- ・ 肉用牛の飼養頭数は、平成 27 年度まで減少しているが、平成 28 年度以降は微増傾向にある。
- ・ 肉用牛の飼養戸数は、平成 22 年以降減少している。一戸当たりの平均飼養頭数は、平成 22 年度の約 40 頭から、令和元年度には約 58 頭と増加している。

図表 2-1 全国の肉用牛飼養頭数及び飼養戸数の推移

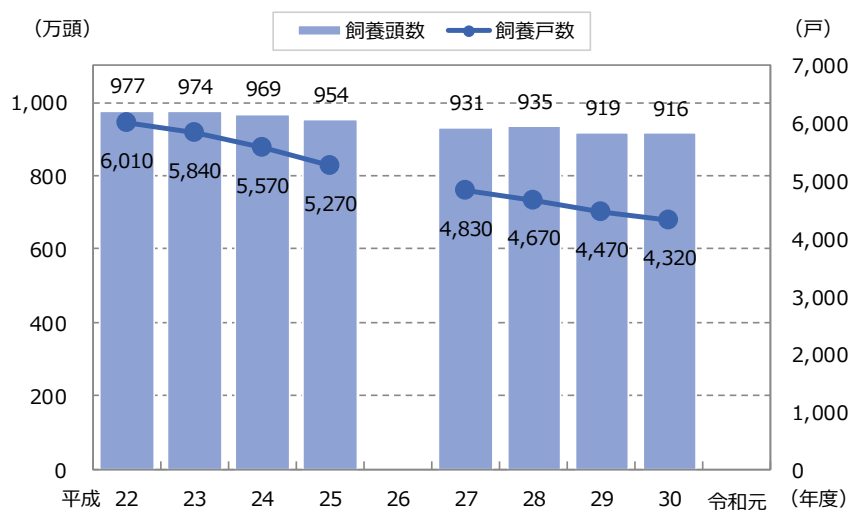


出典：畜産統計（農林水産省）

(2) 全国の豚の飼養頭数及び飼養戸数

- ・ 豚の飼養頭数は、平成 22 年度以降減少している。
- ・ 豚の飼養戸数は、飼養頭数よりも高い比率で減少しているが、一戸当たりの平均飼養頭数は、平成 22 年度の約 1,600 頭から、平成 30 年度には約 2,100 頭と大幅に増加している。

図表 2-2 豚飼養頭数及び飼養戸数の推移



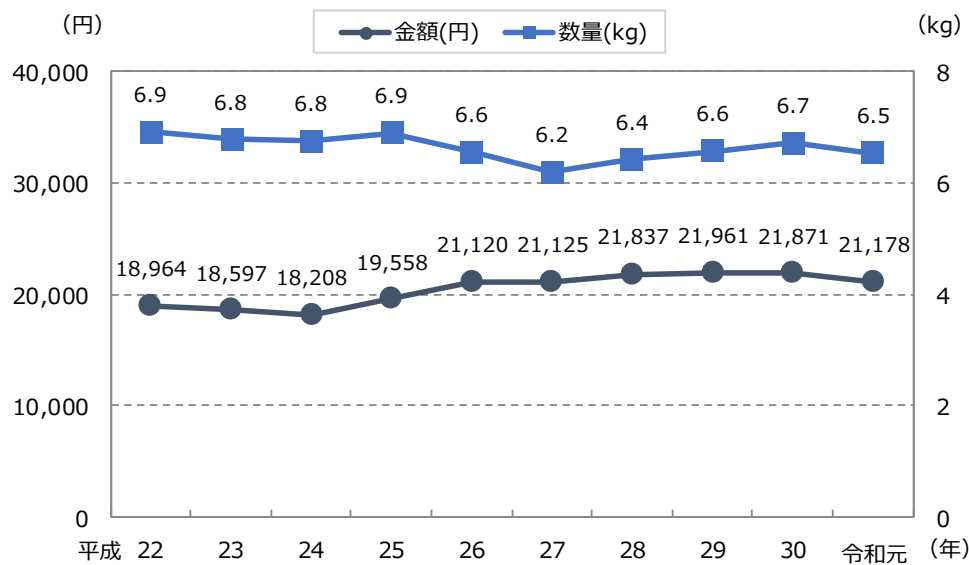
出典：畜産統計（農林水産省）

注：平成 26 年度、令和元年度は農林業センサス実施年のため調査無し

(3) 全国の牛肉購入数量及び購入金額

- ・ 牛肉購入数量は、平成 27 年にかけて減少し、平成 28 年以降は増加傾向にある。
- ・ 牛肉購入金額は、平成 25 年、平成 26 年と増加し、その後は横ばいで推移している。

図表 2-3 牛肉購入数量及び購入金額（二人以上の世帯）の推移

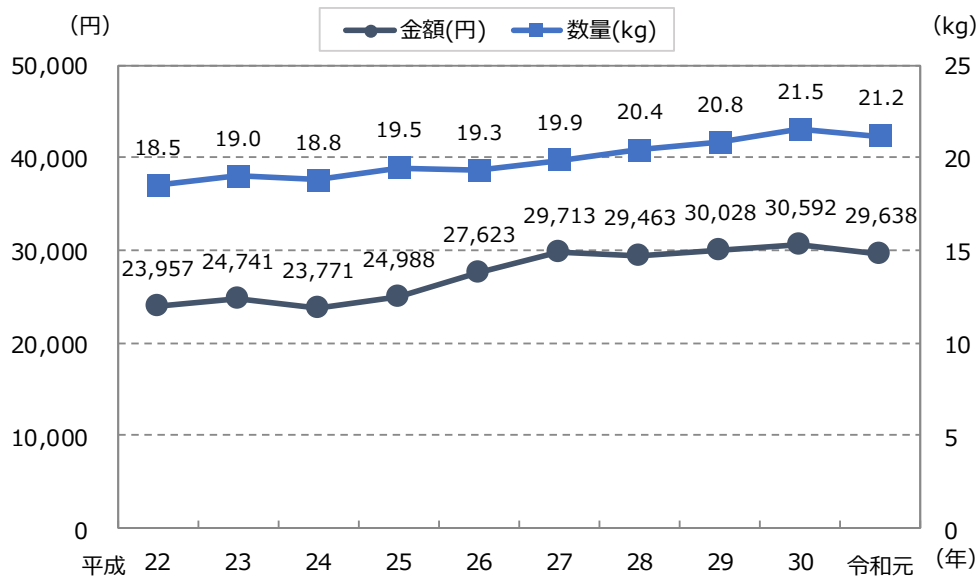


出典：家計調査（総務省）

(4) 全国の豚肉購入数量及び購入金額

- ・ 豚肉購入数量は、平成 22 年以降増加傾向にある。
- ・ 豚肉購入金額は、平成 27 年までは増加しているが、それ以降は横ばいで推移している。

図表 2-4 豚肉購入数量及び購入金額（二人以上の世帯）の推移

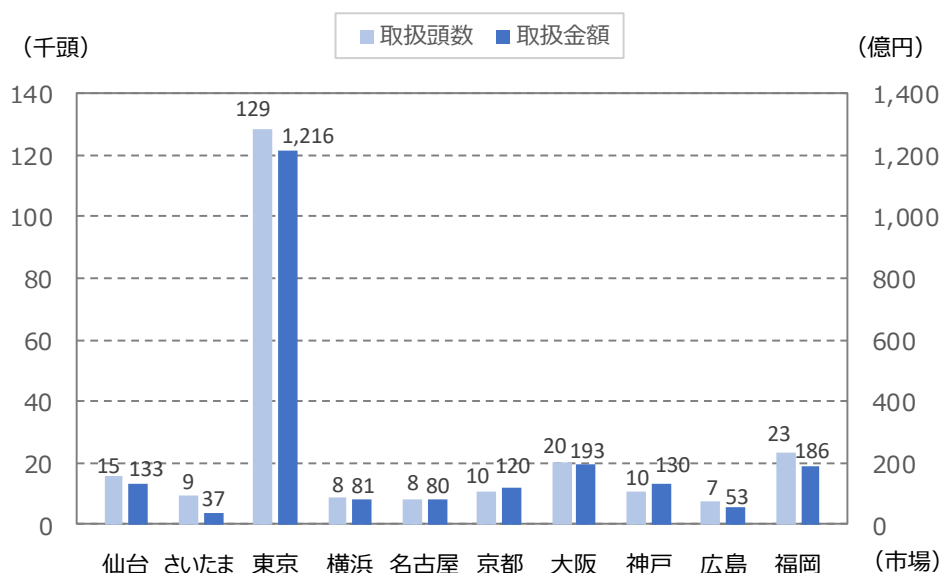


出典：家計調査（総務省）

(5) 他の中央卸売市場の肉用牛取扱頭数及び金額

- ・ 令和元年度の肉用牛の取扱頭数は、東京都が最も多く、次いで福岡市、大阪市となっている。
- ・ 取扱金額は、東京都が最も多く、次いで大阪市、福岡市となっている。
- ・ 本市場は、取扱頭数及び金額については中央卸売市場内で中位に位置するが、1頭当たりの取扱金額は、神戸市に次いで2番目に高い(約115万円)。

図表 2-5 令和元年度・中央卸売市場の肉用牛取扱頭数及び金額



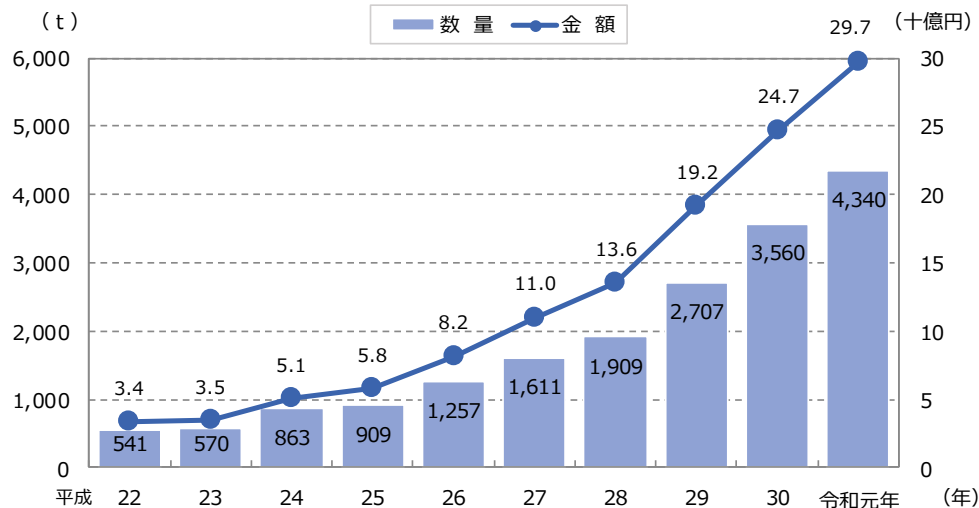
出典：全国中央卸売市場協会食肉部会のデータを掲載

3 輸出に関する動向

(1) 牛肉の輸出数量と金額

- 国の牛肉輸出数量及び金額は、平成 22 年以降大きく増加しており、10 年間で、輸出数量が約 8 倍、輸出金額が約 8.7 倍の増加となっている。

図表 3-1 牛肉の輸出数量と金額の推移



出典：農林水産物輸出入概況（農林水産省）

(2) 地域別のアメリカ、EU、香港、シンガポール、台湾の牛肉輸出認定施設数

- 牛肉の主要輸出先国であるアメリカ、EU、香港、台湾、シンガポールに対する牛肉輸出認定を取得している施設数は、近年増加している。

図表 3-2 地域別の各国に対する牛肉輸出認定施設数

	アメリカ	EU	香港	シンガポール	台湾
北海道地方	1	0	1	2	5
東北地方	1	0	1	1	3
関東地方	2	1	1	3	1
中部地方	1	1	1	1	1
近畿地方	2	2	1	3	3
中国地方	0	0	0	0	0
四国地方	0	0	0	0	1
九州地方	8	4	8	8	8
計	15	8	13	18	22

出典：厚生労働省 HP より作成

図表 3-3 近畿地方における各国に対する牛肉輸出認定施設一覧

都道府県名	施設名	アメリカ	EU	香港	シンガポール	台湾
京都府	京都市中央食肉市場	○	○		○	
兵庫県	神戸市立食肉センター					○
兵庫県	和牛マスター食肉センター	○	○	○	○	○
滋賀県	滋賀食肉センター				○	○

出典：厚生労働省 HP より作成

4 京都市中央食肉市場の10年間の年表

年 月		取組内容
平成 22 年	12 月	「京都市中央卸売市場第二市場「京（みやこ）ミートマーケット」マスタープランを策定
平成 23 年	9 月	牛肉の放射性物質検査（セシウム検査）開始
平成 24 年	6 月	第二市場再整備基本計画策定
平成 25 年	10 月	京都食肉市場（株）が（株）中畜運輸と合併
平成 26 年	4 月	京都食肉市場（株）が京都副生物卸協同組合、（有）イレブンKFと事業統合
平成 27 年	9 月	第二市場再整備工事着工
平成 30 年	3 月	「京都市中央食肉市場和牛輸出戦略」策定
	3 月	新施設竣工式，京都市中央食肉市場宣言
	4 月	新施設市場本棟稼働
	11 月	タイ，マカオ向けの輸出認定取得
平成 31 年	1 月	京都ノートルダム女子大学と包括連携協定締結
	2 月	輸出第一号出発式（タイ向け初輸出）
令和元年	9 月	京都市と畜場開設 110 年・京都市中央食肉市場開設 50 周年記念式典
	9 月	「京都食肉市場ブランド」発表
令和 2 年	1 月	アメリカ向けの輸出認定取得
	3 月	第二市場再整備工事完了
	3 月	シンガポール向けの輸出認定取得
	3 月	牛肉の放射性物質検査（セシウム検査）終了
	4 月	EU向けの輸出認定取得
	8 月	EU向け初輸出（フィンランド）
	8 月	同志社女子大学と包括連携協定締結
	11 月	アメリカ向け初輸出
令和 3 年	2 月	「京都食肉市場ブランド」のSNSアカウント開設